

第20回 県政ひざづめ談議結果概要

開催日時：平成21年1月28日 16:00～

開催場所：甲府商工会議所

〔司会〕

ただいまから知事対話『県政ひざづめ談議』を始めたいと思います。

進行役を務めさせていただきます、県の広聴広報課長、田中でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、始めに横内知事からごあいさつをお願いいたします。

〔知事〕

皆さんこんにちは。今日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。皆さん方、青工会とは昨年、意見交換をする機会がありましたけれども、今日は再度、ひざづめ談議という形で、ざっくばらんな意見交換をさせていただきたいと思います。大変な、戦後最悪と言っていい不況下に今あるわけですが、皆さんも、それぞれ企業経営をしておられる立場として、非常なご苦労を経験しておられると思うわけでありまして。しかし、こういう時が人生の中には何回かあるわけでありまして、事業経営者としての真価が問われる時だと思えます。全知全能を絞って、この苦況を乗り切って、乗り切れれば、また新しい、明るい展望が開かれるわけでありまして、皆さんには、ぜひとも頑張ってください。県としても、金融の面とか、その他諸々の点で、最大限の応援をする体制は整えております。そういうことを含めて、今日は何でも、日頃仕事をしながら感じておられることをご指摘いただければありがたいと思えますので、よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

〔司会〕

本日出席しております県の担当者をご紹介します。

企業経営の支援などを担当しております、清水工業振興課長です。

企業立地の推進を担当しております、産業立地室の高根主幹です。

今日は、活気に満ちたやまなし産業の振興方策などについて話し合いを進めていきたいと思えますので、ぜひ忌憚のないご意見をお願いします。

それではどうぞ。

〔参加者〕

今日は忙しいところ、こういう場を設けていただきありがとうございます。

本日出席している20社のパンフレットを用意しましたので、後でご一読いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

〔参加者〕

弊社は、小瀬スポーツ公園近くの機械金属工業団地内にあります。

今日は、新山梨環状道路についてお伺いしたい。環状道路の進捗状況というのは、弊

社をはじめ金属工業団地にとっても、進捗状況によって生じる影響について非常に大きな感心をもって見ているんですが・・・。

今、弊社の手元にある道路関係の情報誌とか、インターネットの情報が古くて、現状を把握するのがちょっと難しい。それで、進捗状況を簡潔にお伺いしたいというのと、工業団地向けに、今後説明の機会というのがありましたら・・・、これら2点についてお伺いしたい。

〔知事〕

新山梨環状道路は、中部横断自動車道である西部区間はもうできていますが、今は南部区間を造っているんですね。この南部区間はこの3月半ばに全線開通ということになるわけですね。田富から旧玉穂町までの間3キロが供用開始されて全線開通ということになり、甲府南インターの近くまでつながるんです。

問題は北部区間と東部区間ですね。

北部区間は国土交通省が造ることになっています。この区間は、旧双葉町の国道20号のバイパスから山沿いを回り、英和大学付近の西関東連絡道路と接続して、笛吹市内の国道20号のバイパスまで繋がります。今環境アセスメントをやっていて、それから都市計画決定をしていくという段階になっていくわけですが・・・。国道20号のバイパスまではどうしても造らなきゃいかんと思っていますね。ただ、ここへ来て道路に関する予算制度、例えば特定財源だとか、そういうものをやめることになったりとか、ちょっと先行きの見通しが立ちにくくなっている状況です。

国土交通省は、造るということはもちろん言っているわけですけど、どうも先行きの見通しが立ちにくくなってきて、いつ頃着工できるのか、いつ頃完成できるのか、というのは、今の段階ではちょっと分からないということなんですね。

それから東部区間、これは県が造るんですけども・・・。先程の笛吹市内の国道20号のバイパスから南に下って、甲府南インター近くの今度全線開通する南部区間とこれが繋がるように計画をしているんですけどね。ここのところは余りまだ必要性が高くないということなものですから・・・。あなたがおっしゃっているその小瀬というのが、今言っている東部区間ですかね。ここはちょっと先々のところが、今の段階で、どこに、どの程度のものができるかという見通しが立たないんですね。

おっしゃっているのは、この金属団地が道路に引っかけたりしそうということなんですか。

〔参加者〕

そうなんです。ルート上にあるんです。

〔知事〕

引っかけるといふことになると大変だということですよ。これは、県庁の担当者からあなたの所へ状況を連絡させますから。

〔参加者〕

金属プレス加工をやっておりますが、仕事量も減っております、パートの方にも時間を少し減らしてもらいたいとか、1週間のうちに何日間来て下さいとか、休んで下さいというようなことで、結構厳しい状況になっております。

昨日、県と東京電力が共同で行う太陽光発電所の建設にあたり、土地を無償で貸していくようなことをテレビで報じていました。

今、県内から大企業が移転、転出するようなケースが結構多いと思いますが、大企業に土地を無償で貸していくようなことがもっとできないのかなと思います。土地を無償で貸すことで大企業が来てくれたり、残ったりすれば、そこから地元の雇用も増えるし、また、県内の中小企業への受注発注を条件に土地を無償で貸したりできれば、うちみたいに零細企業を含めた中小企業のほうにも仕事なんかが増えてくるんじゃないかと思うんですけども。こういう大不況というのを生き抜くには、思い切りとかが必要じゃないかと思うんです。他県が色々やり出しちゃってからだったら、もうそっこのほうに行ってしまうので、こういう時は本当に思い切って何かできないものかなということをおもいます。まあ、大企業の流出防止として、県としてはどういう対策をお考えかということをお聞きしたいんですけども。よろしくお願ひします。

〔知事〕

東京電力と共同で進めていくメガソーラー発電計画では、米倉山の土地を無償で貸すんですよ、もちろんやるわけじゃないですよ。

あの辺は、17年後ぐらいにはリニアができてきますから、そうするとあそこの土地の値打ちというのは上がると思いますよ。その時は、太陽光発電のパネルなんか取っちゃって、そこへもっと付加価値の高い研究所だとか、そういうニーズも必ず出てきますから使おうと。草ぼうぼうにしておくよりはいいというわけですね。

また、東電からも数千万円、年間の法人事業税を払っていただけますからね、発電することに伴って。県としては、無償にしても、プラスマイナスではプラスになるんですよ。

おっしゃっているのは、県内企業誘致の一環として土地を無償で提供すると、この場合、ただでやるということなんでしょう、貸すというわけではなくて。

〔参加者〕

貸すということです。親戚なんかも農家をやっているんですけど、聞くと、農業だけでは飯は食っていけないよなんていいいますね。まあ農家の考え方も、もう少し新しい考えでやればもっとできるのかもしれないんですけども、農業だけじゃ食べていけないよというところが多くて、若い人たちは農業から離れちゃって遊休農地、草ぼうぼうというのが多くなって、安くてもいい、坪1万でも、年間1万でも2万でもいいから貸しておけば草ぼうぼうにならないから、と言っても、農地の場合借り手がないというようなことを言われているんで・・・。

〔知事〕

農地は、農地転用というのをやっていかなければいかんわけですが、一方で農地を守るという前提があるものですから、簡単には転用できないんですよ。それは農工団地とか、色々制度があって、そういうものに乗っかればできるんですが、空いているからこれは工業団地、じゃあ工業地に使おうというわけにはいかないんですよ。ある程度まとまったところで、農工団地という計画を作ってやっていかないとできないということなんです。ただ、企業の場合は賃貸じゃなくて、やっぱり買うと、自らの土地を求めているんじゃないですか。

〔高根 産業立地室主幹〕

そうですね。今の企業ですと、自分の土地でいろんな事業展開をしたいということがありまして、賃貸ですとやっぱりそこで制限がされると。例えば10年先に返してくれとかということもありますし、大体県外から来る企業は買い求めるケースが多いです。

〔知事〕

そうですね。だから今の県の支援策というのは、立地している企業に、投資額の1割でしたっけ、1割相当分を助成金という形で交付しているということなんですけどね。1割くらい交付すれば、土地の値段の相当部分は補助したものだということになると思いますけどね。

〔参加者〕

かなり大きい企業が、全部県外の方に移転しちゃうとか、こっちを縮小して移転するとか……。やっぱり、山梨のほうをなくしてまでもそっちのほうに行くという何かがあると思うんです。それを逆に山梨に来させるというメリットを持たせないといけないと思うんです。うちみたいな零細企業だと、企業が他県に行った場合、そっちまで行くということができないので先細りになってしまいますから……。

〔知事〕

それはそのとおりですね。今は凍結してますけれども、例えば、東京エレクトロンが仙台に一部移転という話がでた時に、エレクトロンの関連の企業は、仙台に来てくれと言われたけど結局行けなかったと、行けないということを言っているようですね。やっぱり簡単に他県に行くというわけにはいかんようですね。

山梨県の場合、企業立地は結構あるにはあるんですよ、新規の立地が。平成19年は20件。ただ広い土地がありませんからね。今私どもが一番競争する意味で大変なのは、臨海部にでっかい土地が出てきているんですよ、しかも安い。内陸の山梨県は土地は狭いし、しかも割と高いから、そういうところと競争するとなると、なかなか大変なんですよ。

そういったことはあるけれども、企業誘致の努力はしていて、小さいけれども、結構立地は活発にはあるんですよ。

おっしゃったように、取引をしている企業が縮小してよそへ行くということになると、

なかなかみんな大変だとは思いますが、企業立地、企業誘致についてはこれからもできるだけの努力はしていかなければいかんと思います。

〔参加者〕

関連でいいですか。知事さんには県政にご尽力いただいて、本当にありがとうございます。

今、企業立地という、大手の企業さんが主体の話はされたんですけども、山梨青年工業会に所属する会員は、本当に町工場的な、もう超零細企業、もう本当に太田区と同じような感じの企業なんですね。山梨の場合、会社は点々としているけれど、ちょうど操業して20年、30年というような会社が非常に多いです。

自宅のちょっとした庭で親父さんたちが始めて、ちょうど20年、30年経って、じゃあ現状はどうかというと、今は品質管理にいろんな形の手法があるから場所が必要だとか、在庫を置いておかなければいけないが、そうなる敷地が必要になってくる。そうすると自宅の庭先じゃちょっと無理な話。機械なんかもかなり大型化されている。そうすると庭先じゃやっぱりできない。じゃあ違うところを探そうかというのが今の現状なんですね。

しかし、そういう時、土地を探してもないんですよ。ないのが現実なんです。調整区域とか、その農業振興地域に掛かっていて、法の網がいっぱい掛かっていて、この辺にあるといいなと思っても、必ず網に引っかかってしまう。

そうすると、出たい時に出られない。じゃあその外れる時はいつ頃ですかとなると、5年先です。そうするとタイミングをなくしてしまう。そういうのが山梨の現状なんです。

そこで僕らが今考えているのは、大田区のような町工場的なものを、中小企業の固まりですよ、そういった「ものづくり」の一つの町を作ったらどうかと。もちろん大きなメーカーも必要だと思いますよ。

うちなんかは商社的な機能もあるので、いろんなメーカーさんに聞くんです。「なぜ北関東にメーカーが行くんですか、なぜ東北に行くんですか」、「山梨は都内に非常に近い立地条件なのに、中部横断自動車道も通る首都圏に近い所にあるんだけど・・・」と。そうすると「あっ、山梨はそういう所だけ」というような、そういうイメージなんですよ、メーカーも。

そして「山梨には協力工場さんはあるのかな」と聞かれます。要するに協力工場というやっぱり町工場です。「町工場ありますよ。うちは材料屋さんでコードも販売していますし」と答えます。すると「どれぐらいあるの、どういう質でできるの。納期が何日で大体できるの、持っていくと必ずすぐできるエリアはあるの」といった質問をされるんですよ。

山梨はそういうのがないんですよ。だから大手を呼ぶ前に、やはり小さい町工場の「ものづくり団地」みたいなものを計画をしたらどうかと。僕は去年いろんなところを回ったんですけども、やはりそういう集団的な団地がないんですね。

小さい、例えば300坪、400坪の小さいような会社が幾つも集団的にあって、こ

の通りに行ってくるっと回ってくると必ず物ができますよと、メッキ屋さんがあり、処理屋さんがあり、そういったエリアがあればと思います。

これ意見なんですけども、「山梨独自の中小企業の集団が必ずここにはあるんで、大手さん大丈夫ですよと、是非来て下さい」と言えるようにしてほしいです。

知事さんが言われたように、臨海部に大手さんが行くのであれば、山梨は中小企業の集団が幾つもあるようにすればいいと思います。そして山梨独自の強みというものをアピールしていったほうがいいんじゃないかなと思います。

大田区の人たちにしたって、「狭くてどうしようか、広げるにも土地が高い。じゃあ山梨にいい土地があるから出ていこう。近いし、リニアや中部横断自動車道もできるし、広いし」となると思います。大田区のような人たちを山梨に逆に呼ぶと。そういったことを施策的に何かされたほうが僕はいいいんじゃないかなと思います。

〔知事〕

中小企業団地をつくったらどうだということですよ、端的に言うと。まあ中小企業でも幾つか工業団地がありますね。ああいう所に入ろうと思えば入れるんですけどね。

〔高根 産業立地室主幹〕

多分お聞きになっていると思いますけど、甲府市のほうでも南部の工業団地を、できれば来年から市で持っている所を工業団地化して、面積は小さいんですけども活用できるようなことも考えています。幾つかの市でも独自に工業団地を造ろうという動きが出ておりますので、県でも市町村に支援をしながら造り始めています。現状、絶対量が少ないということは理解しています。それを少しでも供給できるような体制づくりを今進めております。

〔参加者〕

必ず山梨の強みになると思うんですよ、大手を呼ぶ前に「中小企業のものづくりの集団がここにあります。だから是非大手さん来て下さい」と言ったほうが。

〔知事〕

企業の皆さんでも土地がないだろうかと、あるいは新規に立地したいんだがというご希望があれば、それは言ってもらいたいですな。

〔高根 産業立地室主幹〕

個別に色々あれば、またうちの課のほうに言っていたら。

〔知事〕

もしそういう会社があるのであれば是非ね。

〔参加者〕

区画割りなんかも。僕らの意見を聞いた上での区画割りというもの。

「これだけ買ってもらわないと困るんです」と言われてしまうと、「ちょっと広いしな」といった部分もあるんですね。「うちの規模だとこのぐらい必要なんだけど、どうでしょうか」と「じゃあいいですよ」としてほしいです。区画割りも僕らに決定をさせていただきたいようなところもあるんですね。なかなかその区画割りのところは難しいと思うんですが。

でも集まると、かなり大きな中小企業の「ものづくり団地」ができるような気がするんですね。

〔知事〕

まあ、それはもう県外から誘致してくるわけじゃなくて、むしろ県内の企業がそうやって大きく羽ばたいていくために土地が必要だということであれば、県外以上に県としては大事なことであって、それは土地の手当みたいなことは考えなければいけないと思うんですね。だからそういう話があれば是非我々に言ってもらいたいと思うんだけど、そういう話がありますか、どうですかね。

〔高根 産業立地室主幹〕

ちょっと、今ここに来て景気が後退してしまっていて・・・。

〔知事〕

まあ、分かりました。

どうでしょうかね。はい、どうぞ。

〔参加者〕

うちも実際土地を探してしまっていて、目星はついていたんですが、結局農振が外れないということで、いつになるか分からないという結果になっていたりする現実もありました。それは今、食の安全ですとか、食料自給率とか、いろんな問題もあるということはもちろん理解できるんですけど・・・。

先程の話に関連しますと、ものづくりの工業団地を造って、一気に通貫的に材料から加工して、表面処理を付けて、組み立てをして納められるまで、例えば山梨で、この団地に行けば「ものづくり」が全て完結できるような、そういった工業団地ができたらいいなというのは我々もたまに話したりするんです。そうなればそれは、山梨県の売りにもなってくるのかなと。

実際いろんな所にもものづくりの会社があって、実はいろんなロスがあると思うんですね。物が動くロス、納品に行ったり、引き取りに行ったり、県外へ処理に出したりとか、非常にロスも大きくて、それはすごく広い目で見ると環境問題にもつながってきますね。例えばCO₂の問題にしても、いちいちトラックを飛ばして遠くまで行って持ってくるより、その団地内の工場に持って行くことができれば、非常に環境にも優しいし、ロスも少ないし、コストも安くできるし、お客さんにも満足してもらえると。

もちろん夢のような話なのかもしれませんが、山梨県でそういうモデル的な工業

団地があると、全国にアピールできるのかなと思います。

中小企業の若手が集まっている山梨青年工業会が、こういったことを考えているということも知事にご理解いただきたいなと思います。

〔知事〕

産業連関というか企業連関、連関がある企業が一つに集まった団地ができるということは、それは理想は理想ですけども、ただそういう幾つかの企業というものが、まあ業態というのはたくさん、無数にあるわけですがね。そういう中で、お互いに関連のある企業だけが一緒に、じゃあ何月何日付けぐらいで土地を手当をして一緒にやりましょうということになるかどうかですよね。ぴたっと合えばいいですけどね。幾つかの取引のある会社が全部一緒に、一つの所にすぽっと入るようになればですね、でも個々の企業はみんな事情が違うわけだからなかなか・・・。「いや、俺のところは土地も余っているし、そこまではいいよ」というようなこともあるから・・・。まあ理想はそうだといいでしょうけれども、現実的に、みんなで一緒になって、繋がりのある企業だけではたつとできるというわけにはいきにくいんだろーと思いますけどね。

いずれにしても、中小企業がそうやって大きくなっていく過程で土地の手当をしなければならぬ。しかしそれがなかなか農地転用とかそういう問題があって苦しんでいるというのは、これは県としては放置できない問題だと思います。そういうのを相談する所はなかったかな。

〔高根 産業立地室主幹〕

うちの課のほうでもやっています。具体的に相談も受けております。

〔知事〕

この人は産業立地室という、産業、企業誘致を進めている人だけでも、県内企業の新しく造成する土地の手当みたいなこともやっているわけですよ。農業の専門家ですから、県内では農地転用については一番の専門家ですから、こういう人に相談すればいいと思いますね。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

ちょうど100年に1度の大不況という中で、山梨県に37億円もの地域雇用創出推進費が配分されるということが報道されていましたが、県としては雇用創出のためにどのような使い道を考えているか、知事のお考えをお聞きできればと思います。

〔知事〕

これは緊急対策ですからね、緊急に雇用を、新規雇用を拡大をする、創出をする、そういう事業がないかということで、現在、各部からアイデアを出させているところなんですけどね。まだ私は全部見ていませんが・・・。

まあ色々なアイデアが出てきていると思うんですよね。そういうものを来年度の当初

予算の中に入れて、国のほうの37億円という交付金を使いながらやっていくということで今やっています。

具体的にどんなものが出てくるかまだ分かりませんが、例えば遊休農地というのが段々広がっているわけですね。遊休農地というのは、もう草ぼうぼうになり、中には3年もすればでっかい木が生え出したりするわけですね。景観的にも良くないし、回りの桃や葡萄を作っている農家に見れば、害虫がそこで発生するから非常に迷惑するわけですね。そこでじゃあこういう遊休農地の草とか木をこの際全部切っちゃおうじゃないかと。そしてきれいに整地しよう。その後、菜の花でも植えておくとか、あるいは畑として使う人がいれば使ってもらおうとか。そういう事業というのは、県をきれいにするという意味からも大変大事なことですよね。

そういうものができるかどうか分かりませんが、そんなようなアイデアを今盛んに県庁の中で募っているところです。まあ4月からはそういった事業ができるように、国の予算が通らなければだめなんですけど、通ったらすぐできるようにしようかと思っています。何かアイデアがあれば教えてもらいたいと思います。それは失業者などを使ってやる事業ということです。

〔参加者〕

ありがとうございました。

〔参加者〕

最近、雇用の面で派遣切りとか色々な問題がでていますが、去年の末から今年にかけて、派遣切りされた方などから直接電話が来て、雇ってくれないかという話がありました。色々話をしていきますと仕事はもちろんなんですけれども、住宅もありますかというようなことを聞かれるんですよね。やっぱり大企業の所にいた方々というのは仕事はもちろんなんですけども、当然寮や社宅がもう完備されているという感覚で聞いてきますね。もちろん零細企業なものですからそんなものはありませんが、ちょっと感覚が僕らとはずれていて、そういった仕事プラス居住する部分、全部セットになっているものだというふうに思い込んでいるところがあるんです。だから、雇いたいなと思っても、結局そんな住むところの話になってきまして・・・。

中小企業にもそういった行政関係の広い住宅を寮として貸し付けるような形での、仕事と居住を一緒にできるような制度とか、補助みたいなものもあればななんていうふうに思ったんです。

まあ常識的に考えれば、やっぱり活性化というのは人口が増えることということだと思いますので、そんな制度を是非検討されたいかかなと思います。よろしく願いいたします。

〔知事〕

まあ住宅は公営住宅で空いているものがありますから、それを提供しますと言っているわけですがね。

余り希望がなかったかな。

〔清水 工業振興課長〕

今のところ聞いている話では、20戸のうち3戸しか埋まっていないと・・・。

公営住宅の待ちというのは千人ぐらいいるんですよ。また、公営住宅は所得の低い人でないと入れないんですよ。ですからある一定以上の給料がある人はまずだめ。それから給与の低い人でも千人ぐらいが待ちの状態というふうに聞いているんですよ。

〔知事〕

だけどその20戸、今回提供するという20戸は、そういう失業している方であれば誰でもいいよと言っているわけですね。でも余り希望が出てこない。結局自分が勤めるその場所に便利のいい所にあるかどうかなんです。県が公営住宅で提供すると、県下あっちこちにやたら造らないかん話になります。

基本的に、派遣の場合には、その派遣者を受けの会社がアパートとかを手当するわけですよ。そういうことしかないんじゃないかなという気はしますけど。お宅はどうですか、アパートが近くにあるから借りなさいよと言ってもそうもいかんですか。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

たしかに、会社が借りると言われても困るよね。この辺を斡旋するからここを借りなさいよというのはだめなんじゃないかな。

〔参加者〕

何というか、ちょっと感覚がずれているところがありまして・・・。

〔知事〕

もう住宅はあるものだと思っている。

〔参加者〕

一緒になっているもんだと思っ込んでいますね。

〔知事〕

それは外国人の方。

〔参加者〕

いいえ、日本人です。

〔知事〕

日本人でね。そうですね。住宅を県が手当するというのはなかなか難しい。

どうですか、ほかに。はい、どうぞ。

〔参加者〕

一昨年ぐらいからクラフトマン21という取り組みが行われていまして、うちの会社でも葦崎工業高校から何名か来て、実際に加工を見ていただいたりしてもらっています。クラフトマン21は、以前のインターンシップよりは多少日数が長くなったりとか、時間が長くなったりということはあるんですけども、正直、まだちょっと内容が中途半端ではないかなと。

実際に、本当にものづくりに興味を持ってもらったりとか、何かものづくりに触れてもらうという所まではなかなか行き着けていないような印象を受けています。

それにあたりましてご提案という形になるんですけども、この事業は、学校側から企業側に、いついつに、こういった生徒が何名来ます、よろしくお願ひしますというふうに先生がごあいさつに来てスタートするんですけども、もっと打ち合わせを密にする必要があると思います。例えば、事前の勉強を学校のほうでしっかりやっていただく。そして企業に来て実践を行っていくとなれば、より深い学びができるのかなと思います。

実際に企業に来ていただいて機械の説明を受けたり、簡単な作業で鉄を加工した際に出るバリを取ってもらったりとかするんですけども、実際私が同じ立場でその作業を5日間やらされたとしたら、多分製造業に就こうとは思わないですね。製造業が本当に楽しい所というのが何も伝わらないような気がします。

人材育成という部分であれば、もっと密な打ち合わせをしたりとか、計画性を持ってやっていただくのが、より効果を生み出せるのではないかなという印象を受けました。

〔知事〕

確かにそれは非常に大事なことです。まあ学校の先生が来て、「じゃあ5人よろしくお願ひします。何月何日から何日まで」とか言ってね。それで済むかと言ったらとんでもないことだよ。あらかじめ相談に来て、どうでしょうかねと。やっぱり製造業というものの楽しさが分かるような、そういう作業工程みたいなものをお互いに考えて、そして、そういう所に高校生に来てもらうという形でないかね。

〔参加者〕

実際学校側にも切削機械とかというのがあったらいいですね。ただ取り扱いが難しいとか、危ないということで、先生が使っているのを生徒たちが見るのみだというふうに聞いているんですね。まあ企業に来て少し触ってもらって、こういうものなんだと実感をしてもらうのもいいと思うんですけど・・・。

まあ学校でもっと細かい説明をして、今度行く企業では実際にこういう機械を使って、こういう物を作っているんだよと。そんなことを踏まえて来ていただくと、また違うのかなという印象を受けています。

〔知事〕

学校の先生もこういうことをやる以上、そういうことは当然当たり前のことなんです
がね。相談に来て、どうでしょうかねとか。

〔参加者〕

ちょっと話をしたいんですけど、うちもクラフトマン21で工業高校の生徒さんを受
け入れています。明日ちょうど工業高校に行って、学校の見学会と先生との打ち合わせ
を行うんです。

気になっているのは、工業高校の機械が古過ぎるんですね、本当に。もうなんでこん
なに古いのを使っているのって・・・。生徒さんが各企業に見学に行くと、「何ですか、
この機械は」と。「こんな機械があるんですか」と。なんでこんなスピードが出るんで
すかというような、そういうカルチャーショックなんですよ、先生たちも驚くんですね。
山梨が工業生産でもっているにも係わらず、今後山梨を支えていくであろう生徒たちが
こういう状況というのは、非常に可哀想だなと思ったんです。

〔知事〕

そんな古い機械がね。

〔参加者〕

高等専門学校がないということも、もちろんあるのかもしれないんですけど、工業高
校たるべきものの主体の機械が余りにも陳腐化して、生徒さんたちが可哀想なんです。

〔清水工業振興課長〕

そういうこともあると思います。そうは言っても、葦崎工業高校は、新聞によると2
年生が旋盤の、普段ですと3年生とかでなければ取らないような資格を取ったとかとか
で、クラフトマン21の成果として喜んでいましたね。

〔知事〕

そこはよく打ち合わせするように直させましょう。機械が古過ぎるという話も・・・。

〔参加者〕

予算の関係もあると思うんですけどもね。

〔知事〕

予算の関係もあるけど、場合によっては学校の先生が嫌がるかもしれないね。新しい
機械やるなんて言っても自分は分からないわけだから。(笑い)

〔参加者〕

それは先生方も言うことですね。

〔知事〕

これもちょっとよく聞いてみますよ。おっしゃるとおりですね。
はい、どうぞ。

〔参加者〕

私、出身は工業高校ではないんですが、ある高校の同窓会の会長を9年勤めさせてもらっています。

例えば甲府工業さんとか韮崎工業さん、ある程度歴史のある学校になるとそれなりの卒業生がたくさんいらっしゃると思うんですよ。当然、がんばっていらっしゃる方が多いと思うので、そういう方々は自分の学校、母校もしくは後輩たちに向けて、こういうことをやってあげたいとかということがたくさんあるはずなんですね。だから、同窓会として、社会人として、ものづくりに夢を持っていこうとする後輩たちの手助けができることがあると思うんですよ。

例えば、今の機械が古いという一つのことを取っても、そういう人たちの応援というものをうまく募れば、機械というものは、県の予算を使わなくても結構導入できると思うんですよ。

まあ、当然県立高校なので、例えば、建物は同窓会の方で建てたとしても、その後の電気代とかそういう管理費的なものは県費で賄わなければいけないということになってしまって、なかなか生徒たちが望んでいるものを造ってあげることができないんですよ。

〔知事〕

例えばどういう物を造ろうという話があったんですか。

〔参加者〕

子供たちから、トレーニングジムが欲しいという意見が何年か前からもありました。そこで、車庫を改装してトレーニングジムに変えたんです。我々同窓会としてはトレーニング機器を用意したんですね。あとPTAでその車庫の修繕はしてもらったという形もあるんですけど・・・。

まあ工業高校にしても、新しい機械というものは、そういうところをうまく考えていけば、できるはずだと思うのですが・・・。

〔知事〕

全くそのとおりですよ。それは同窓会が寄付すると言えば、全く問題なくできると思いますね。

〔参加者〕

そういうことをうまく伝えることができるのであれば、県や各学校などから打診を試みたりとかすれば・・・。伝統のある学校というのは、もう一声掛けるだけでかなりの額が集まると思います。そうすれば今の子供たちのために、山梨のために、山梨の将

来のために設備が拡充でき、社会に出た時に、高校の時に使った機械とは全然違うというギャップがなくなってくると思うので、そういうことも考えていただければなと思います。

〔知事〕

全くね、それはそのとおりですね。いや、ありがとうございました。
ほかにいかがですか。

〔参加者〕

是非意見というか言わせていただきたいと思います。横内知事には、山梨のいろんな産業とか、地域の良さとかを、日本のいろんな各地に発信していただければ、もっともっと広がるんじゃないかなと思っておりますので、是非よろしくお願いします。

〔知事〕

それは全くそのとおりで、私も一生懸命やっているつもりなんですけどね。できるだけ外に出て行って、色々やっているんですけどね。まあそれが知事の仕事のひとつだと思っております。

近々京都に行って、また甲州ワインをPRしたりとか、ワインで言えば、例えば県外の人には必ずこういう名刺で、後ろに甲州ワインは和食に合いますという、これを渡したりとか、色々やっちゃあいるんですがね。

それから今年からいよいよ山梨ブランドを大いにPRしよう、東京に売り込もうということはかなり本格的にします。よくあるじゃありませんか、どういうやり方をするかは、これから企画会社と一緒に練っていくんですけども。例えば、東京都バスにでかい広告が出ていたりとか、色々ありますよね。あるいは山手線にだーっと吊り広告が出ていたりとかありますよね。ああいうような類のことを本県も本格的にやろうということにしているんですけどね。まあ大事なことですね。PRするということは本当に大事なことだと思います。

いかがですか。はい、どうぞ。

〔参加者〕

今景気が非常に大激震の中に入っているわけですね。山梨の製造業を活性化するために、「ひざづめ談議」ももちろんすばらしいことだと思うんですけども、知事さんには、是非現場に足を運んでもらって、作業している人たちに「がんばってくれ」というようなことを、現場で声を掛けていただきたい。そうすると多分社員も、「うちに知事さんが来て、がんばってくれて言われたよ」と家族に言うはずなんですよね。そうなるともう本当にがんばっちゃおうと、自分にステイタスが持てるような感じがあるんですよね。

やっぱり山梨のトップリーダーがうちの会社に来た。うちの会社、やっぱりすごいのかなというふうに社員さんたちも活気が出てくると思うんですね。

是非何かそういったアクションを少し取っていただけると、現場に対しての、その作業をしている、本当にもう下積みから一生懸命やってきた現場の人たちに、知事さんの声で多分エネルギーがまた出るというような、そんなことを思うんですね。

何か機会があったら、山梨青年工業会の会員の何軒かの現場に行って、「がんばっている、頼むね。あんたらの力で山梨を盛り上げてよ」というような声を一言掛けていただけるとすごくありがたいんですけども。

〔知事〕

それはおっしゃるとおりでね、あとは時間だけの問題なんですけどね。ただ、ほとんど時間がなくて、土日も含めてないんですけども、できるだけそういうことはやらなきゃいかんと思いますね。

けれども、私自身が一人で動き回って見たって、やっぱり限られているところもあります。やっぱりこういう厳しい時期というのは、県庁の職員が直接出向いて行って、中小企業の親父さんに会って、「どうですか。是非がんばって下さい。こういう制度があり、こんな制度もあります。こういうことは応援できますよ」と、そういうことを言ってやるだけでも、そうやって励ますだけでもやる気を出してもらえるとということがあると思うんですね。

県も商売の中まで立ち入るわけにはいかんもんですからね、新しく仕事を作ってやると言ってもそうはいかんわけですから、結局は資金繰りをきちっと手当をしてやったり、いろんな支援措置を、補助的な措置というのはできるだけ手当をして、さあ一つ、是非がんばって下さいと。あとは勇気付けてやるということですよ。

だからとりあえずこの4月、3月までの間に千軒、県庁の職員は回ると、中小企業をですね。今のところ400軒回ったそうですけれども、この4月以降に入っても県庁の職員が二人で組になってあっちこち回り歩いちゃですね、そういうことは是非やっていこうかと思っていますよね。私ももちろんできるだけそれはやりたいと思っています。

〔参加者〕

是非その時は知事さんのメッセージ付きの何かがあると、コピーでもいいんですね。知事さんがみんながんばってくれというようなものを渡すと、ちょっと、ああ嬉しいなと。筆でちょっと書いていただければ。

〔知事〕

まあ、そうやって直接、苦労している方々の所へ行って励ましたり、アドバイスするという事は非常に大事なことです。こういう時は特にそうだと思いますね。

仕事は忙しい、忙しくてしょうがない時は、黙っていてもいいわけですが、こういう時こそ、本当に動かなければいけないと思いますね。いいお話をありがとうございました。

〔参加者〕

先週ですかね、木曜日、金曜日に新宿のほうで、長野、静岡、山梨の3県合同の「テクノメッセ in 東京」に出展させていただきました。

〔知事〕

出たんですか。ご苦労さまでした。

〔参加者〕

今回初めて出展させてもらったんですけど、他県の方々に見に来ていただいて、この月曜日から実際に見積もり依頼が3件、1件は決まったんです。

私はまだ起業して4年目なんですけど、もっと県外、全国に自分の技術なりをアピールする場を是非たくさん作って欲しいなと思います。

〔知事〕

そういう展示会とかというところへ参加するチャンスを、機会をできるだけ与えてくれということですね。

〔参加者〕

はい、そうです。

〔知事〕

大事なことです。やればやっただけの反響はありますものね。

〔参加者〕

インターネットにもずいぶん発信しているんですが、実際にフェイスツーフェイスで。

〔知事〕

やっぱり見に行くというのは大事ですよ。

〔参加者〕

はい。そして話をさせてもらって、技術の紹介を実際にするとかなり反響もありますしね。

〔知事〕

まあいろいろ機会があるでしょう。

〔清水 工業振興課長〕

いろんな助成措置もございます。ただ、長野、静岡、山梨の3県合同は、実は今年でおしまいになるということらしいんですけどね。

ほかにも、例えば機械要素技術展ですとか、いろんな展示会の出展の助成制度も用意

してありますから、色々にご相談いただければと思います。

〔知事〕

展示会には必ず山梨のブースを作ってやれというような話をしているんですけどね。近々太陽光発電、それから燃料電池の展示会が、ビックサイトであるんですよ。去年見に行ったら山梨県は何もないですよ。しかし山梨の企業はずいぶん入っているんですよ。中には島根県だとか、県がブースを持って、その中に中小企業の皆さん方が入ったりしているんですよ。だからそういう展示会のブースを県が借りて、希望がある中小企業の皆さんは入ってもらったらいいじゃないかということを行っているんですけどね。

まあそれもいいし、またいろんな支援措置があるようですから、それを利用してもらいたいと思いますね。

インターネットよりも、直接見て話したほうがいいですよ。直接見ると面白いですよね。私ら素人から見ても面白いですね。是非がんばって下さい。

〔参加者〕

山梨県の強みって部分では、例えば環境、まあ町工場で学生さんの知恵と私たちの技術を組み合わせて、環境に適した装置ですとか、ものづくりというのを試みてですね、そういうところから展開していくというのもどうかなと思うんですけども。

〔知事〕

産学連携というものを色々やっているんですがね。昨日も産学連携のシンポジウムなんかありましたけどね。色々やっているんですよ。

〔参加者〕

一体となって何か素晴らしい物が造ればいいなというふうに思うんですけども。

〔参加者〕

それにちょっとからむ話なのかもしれないんですけど、燃料電池の開発、研究をしているじゃないですか。県としてそういう研究のみではなくて、山梨でも研究プラス製造していけますよみたいな・・・。

結局研究だけ山梨でして、他県で製造となると、県にとってもすごい損失なことだと、我々にとっても、ものづくりとして残念だなというところがあるので、県としても、燃料電池などからめて何かあるんでしょうか。

〔知事〕

燃料電池関連のいろんな企業がありますけれども、そういう企業も入れながら、燃料電池というものを実用化をしていくためのプロジェクトみたいなものを来年度立ち上げようと考えているんですけどね。それは比較的大きい会社と実用化のいろんな検討をしていこうということで・・・。今の段階では、中小企業の皆さんに何かということはない

いんですけどね。

燃料電池というのはかなり裾野が広いですから、多分この中でもそれが出てくれば、そういう仕事が出てくる会社があるんだろうと思うんですね、かなりね。

確かに、研究だけしてそれでおしまいというじゃいけないんであって、それがやっぱり産業として根付くようにしなければいかんことは、全くそのとおりです。

〔参加者〕

当社は蕪崎に移転が決定しておりまして、土地を取得して準備をしています。先日は蕪崎市長さんとか、関係の方々とは色々話をさせていただきました。

そこで、企業立地などに関してちょっとお願いがあるんですが、今聞いている補助・支援の内容は、3億円投資しないといただけないということにして、当社も最初はいろんなことを考えたんですが、やはり中小零細企業ですと、3億円という金額はかなりの金額にして、正直言いますと創業する時に必要なぐらいの金額となっています。

実際、今回の移転等々で支出する金額は1億弱なんで、残念ながら、支援補助策の採用とうまく合致しません。ですから、もうちょっと小さく見た、細分化したものを創設していただきたいなということが一つあります。

また、これはちょっと笑い話になるんですが、3億円の投資でなく1億円の投資だから補助できないということに対して、今回取得するところの資産額は6億円強あるから、税金は6億円に対して払うんですよと言われて困っております。

〔知事〕

資産額というのはその土地のですか。

〔参加者〕

土地、建物の資産が6億強だから。

〔知事〕

ああ、じゃあどこかの企業が使っていたものを買うわけですか。

〔参加者〕

はい、そうです。

〔知事〕

もう閉めちゃったから、割と安く買えるということですね。しかし資産価値は6億あるから固定資産税は6億で評価するよと言うんですか。これについてはどうですか。確か投資額も限度があるんだよね。

〔高根 産業立地室主幹〕

県の企業立地の助成制度なんですけども、実を言うと5億円が一つの基準になってい

まして、それを超えた投資額の場合、知事さんが言うように1割県のほうから助成しているんです。

〔参加者〕

実際3億円とか5億円という金額は、やはり普通の我々10人、20人の会社ですとちょっと唐突な金額ですので。

〔知事〕

融資制度は色々あると思うけど、融資の方はもう・・・。

〔参加者〕

まあ色々ご支援いただいて、今かなりいい方向で動いていただいております。

〔清水工業振興課長〕

確か経営革新計画を取っていますよね。あの中にも融資とか固定資産税の減価償却とか色々制度的な。

〔参加者〕

それも若干いただいております。

〔知事〕

ただ現金がこなきゃね。これは困ったね。

〔参加者〕

是非細分化した支援策をまたよろしくお願いします。

〔知事〕

まあ極端な話、じゃあ2千万、3千万でもいいのかということになると、そうもいかんと。やっぱり雇用も吸収力もあって、ある一定規模以上のものとなるんですよね。

今5億円となっているわけだけど、まあそれが3億円、おっしゃるように1億円ということになると、どうかということになるわけですね。まあ問題意識はよく持っておきますから。

〔参加者〕

リニアって、これからの山梨の産業に、非常に効果的な話題であると思います。現実にもう少ししたら駅も決まると、期待感がすごくあります。やはりここは、国にも太いパイプがある横内知事に、国へのプッシュを強くしていただいて、17年後の完成ではなくて、少しでも早くJRとタイアップして、国家プロジェクト的に取り組んでほし

いと思います。

もう一つは、やはり発想を豊かにしたいなと思います。ここは県のシンボリックな県ブランドとか、いろいろアイデア、県として知名度を上げるようなことを・・・。

とにかく、山梨県を元気にする取り組みをお願いしたいと思います。以上です。

〔知事〕

リニアは、もちろん一日でも一年でも早くしたいと思っています。明日からいよいよJR東海と地元のいろんな交渉が始まるんですけども、まあ1年、場合によっては2年、もっと掛かるかもしれませんが、ルートは何丁目何番地までは決まらないんですよ。かなり広い幅で、この幅の中のどこかにというような感じなんですね。だからその駅の位置も、まあ山梨県の地図がこのぐらいあるとすれば、そこのこの位の丸で示す程度であって、何処そこの何処の何処とか、誰々さんの土地までとかいうところまでは決まらないんです。その程度のことになって、それで整備計画というやつができるわけですね。

整備計画を作って、そして今度は環境アセスメントというのをやっていくんです。今度はもっときちっと決めないとアセスメントできませんから、アセスメントの段階で段々段々具体化していくんです。それでアセスメントというのが2年から3年掛かってしまいます。

それから今度は実施計画というものを決めて、ようやく用地買収に掛かって、そして着工していくということになります。工事に着工してからも10年掛かりますからね。例えば、品川の地下から掘っていくたってですね、シールド工法でトコトコ掘っていくんですけども、これはやっぱり山梨の県境の近くまでシールドで掘っていくとなると、相当時間が掛かるんですよ。だから工事というのは10年ぐらいは掛かるのではないかと思います。

工事の前にはもちろん用地買収の時間があります。だから、どうしても16、7年は掛かっちゃう。

JR東海にしてみれば、それを少しでも縮めようとかかなりの努力をしようとしているわけですが、やっぱりそれが大幅に縮まるというのは、なかなか現実問題としては難しいという感じはありますね。まあできるだけ早くやりたいというふうに思います。

あとPRをやるというのはそのとおりで、来年度は大いに、さらにPRを強化をしていきたいというふうに思ってますがね。

〔参加者〕

ありがとうございました。

〔参加者〕

私10年前にアメリカのアイオワ州のほうに留学したんです。向こうの大学に行けたのは、山梨県とアイオワ州の姉妹都市の交流の関係のお陰なんです。非常に国際的にも視野が広がりましたし、非常に有益な経験でした。近年、姉妹都市の交流事業は予算の縮小で激減しているというような話を聞いております。

山梨県もアメリカだけじゃなくて、中国とか韓国とかフランスのほうにも姉妹都市があるわけですがけれども、やはり日本に精通した外国人を増やすという意味と、なおかつ国際的な視野を持ち合わせた日本人、もっと言えば山梨県人というのをもっと増やすことによって、山梨県の知名度も上がります。国際的な知名度が上がるということは、我々としても非常にビジネスチャンスが広がってくると思います。

ですから私が今申し上げたいのは、その姉妹都市の交流事業ですね、予算の縮小というのがあるということを知っていますが、根絶やしにすることなく維持していただいて、それで予算がもっと確保できたら拡大するというので、山梨県の国際化ということにもっと横内知事をはじめ、山梨県に力を入れていただきたいと思います。よろしくお願いします。

〔知事〕

いや、分かりました。確かにアイオワ州との繋がり、関係というのは多少薄くなっているかなという感じはありますよね。まあフランスもあるんですけど、相手のほうが余りその気がなくて……。中国の四川省なんかは、今はもうずいぶんと発展してきて、力もついてきましたしね、一時のようなことはなくなった。そういうことからすれば、やっぱり韓国の忠清北道ですよ。向こうも熱心だし、こっちも熱心なんですよ。

アイオワ州とは、最近ちょっと交流が少し低いなという感じはありますね。それは気を付けてやっていかなければいかんという感じがしますよね。分かりました。

〔参加者〕

我々山梨青年工業会というのは45歳までの若者で構成する組織なんですけど、もちろん活発に活動はしているんですけど、なかなか表に出られない。我々みたいな年代の者が、もっといろんな所で発言をしたりできる場があまりない。

何かの会とかに出ても年配の方のほうが多く、やっぱり“チェンジ”じゃないですけど、山梨県の活性化のため、もちろん我々もがんばっていきますので、是非知事からもあいつらの意見も聞いてみるみたいな形で、お声掛けなどをいただけたらとてもありがたく思います。

〔知事〕

県の総合計画審議会とかそういうところがあるんですけども、確かに青年工業会の方は入っていないのかもしれないな。

〔清水工業振興課長〕

お一人入っています。

〔知事〕

そうですね、できるだけいろんな場に参画をしていただくように心がけをしたいと思っていますね。分かりました。

〔参加者〕

我々若手に期待することなどありましたらお聞かせいただければと思います。

〔知事〕

若い事業家ですから、これは山梨の産業経済の将来を担うわけですからね。是非がんばってもらいたいなということに尽きるわけですね。

とりわけこの非常に厳しい状況の中で、しかし、こういう厳しい状況だからこそ企業が大きくステップアップし、飛躍をするチャンスでもあるわけだから、こういう時こそ知恵を凝らし、また身体を動かして新しいビジネスチャンスの芽を作ってもらいたいなという思いは強いですね。

何といっても非常に一番の働き盛りであり、45歳ぐらいということになりますと大事な時ですね。まあ是非こういう大事な時期を無駄にしないようにがんばってもらいたいと思いますね。

もう55、6過ぎちゃうと、なかなか新しいことに挑戦するには慎重になりますからね。しかし若いうちというのは、まだまだ失敗しても再起ができるわけだから、是非がんばってもらいたいという思いですね。

それからもう一つ言いたいのは、山梨県人というのは割と内向き志向が強いなということを感じます。もちろんこういう会合に出て、色々お互いに切磋琢磨するのはいいことですけれども、盆地の中で取引をしたりとか、盆地の中で何か商売でもやろうとか、そういうことじゃだめなんで、やっぱりよそへ目を向けていかなければだめですね。よそへ広げれば、色々なビジネスチャンスはたくさんあるんですよ。

この中で何かやるということではなくて、外へ出て行って新しい可能性というのを見付けてもらいたいと思うんですね。

山梨の人を見ていると、みんなそれぞれ外に出ていけば相当なことをやるだろうなという人がたくさんいます。是非、内向き志向にならないように、広く県外、あるいは世界に目を向けてもらいたいなと思いますね。その二つですね。がんばって下さい。

〔参加者〕

先ほどのリニアの話ですが、駅の問題ですね。是非がんばっていただいてですね、市内に駅を設置してもらいたい・・・。

〔参加者〕

自分たちもやっぱり経営者としてがんばっていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

〔司会〕

それでは皆さんよろしいでしょうか。

〔参加者〕

最後にすみません。本日は本当にお忙しい中、横内知事ありがとうございました。また、県の皆様もこういう場を設けていただきまして誠にありがとうございました。

我々青工会は、中小零細企業の経営者の集まりです。本当に生き残っていくために、今年は本当にもがき続ける年になるのかと思います。やれることをやって、どうやって生き残るかを考える、本当に大事な時であります。

しかし、なかなか我々の力だけではできないところもあるので、そういったところに行政のお力を貸していただいたり、また、行政と一緒にできることは一緒にやって、山梨の産業をもり立てていこうと思っていますので、これからもよろしく願います。

〔司会〕

それでは知事から、最後にまとめをお願いします。

〔知事〕

今いいまとめをしましたね・・・。まあ再々申し上げているとおり、皆さん金型加工とかそういうものをしてあって、一番厳しいだろうなと思います。大変だと思いますが是非がんばってください。

まあ何か色々あったら是非相談してください。行政として、できること、できないことあるんですけども、さっきも申し上げて思いは伝わったと思いますけれども、最大限の応援をしていくという思いでがんばっていきますから、どうかよろしく願います。

是非そんなことで、お互いにこの1年、厳しい時期を乗り切っていきましょう。ありがとうございました。

〔司会〕

どうも皆さんありがとうございました。知事からお話がありましたけど、仕事の関係は工業振興課へ、その他県政のことについては私どもにクイックアンサーという制度がありますので、ご意見や、ご質問などをお寄せいただきたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。